



一年生になったら・・・

キッズ国際学園、一年生ご進級ご予約のお子様をお持ちの保護者の皆様に、お子様が幼時部から初等部に進級するとき、保護者としての心の準備をどうするか、お伝えしたいと思います。

キッズ国際学園、初等部へのご入学、おめでとうございます。4月から、子供たちは新しい教室、新しい先生とともに、幼児部のときよりも一歩進んだ学習を始めます。子供たちにとって、小学一年生になることは大きなチャレンジです。そして、それは保護者の皆様にとっても、お子様たちとの新しい生活が始まるということであり、お子様たちには、幼児部のときよりも一歩進んだサポートが必要になります。特に難しいという内容ではないかも知れません。しかし、あらかじめ理解し、普段の生活の中で意識していないと、できないこともあります。不安と期待に小さな胸を膨らませている子供たちを、しっかりサポートしてゆきましょう。

入学前の準備 - お父さん、お母さんに知っていてほしいこと



1. 学習環境が変わる・・・ということ

幼児部では「楽しみながら勉強」という部分で、「楽しみ」の部分が大きく設定されていました。しかし、一年生になってからは「勉強」という部分がもっと大きな比重を持つようになります。子供たちだけでなく保護者の皆様にとっても、これからは子どもたちをしっかりサポートすることが望まれるようになります。

① ご家庭での支援が必要です

初等部では、当たり前のように宿題が出ます。宿題をするのは子どもですが、保護者の皆さんには、子どもが宿題をしっかりしたかどうか、確認していただく必要があります。これは保護者の「宿題」です。キッズ国際学園は一週間に一回しかありませんから、宿題をしっかりするかどうかは、日本の学校よりも重要です。

キッズでは、子供の宿題の「〇付け」は、保護者の皆様をお願いしています。子供たちは、宿題を終えると皆さんに「終わったよ」と持ってきます。そこからが、皆さんの宿題です。キッズでの〇付け - 答え合わせでは「×」を付けてはいけません。間違っているところがあったら、そこには赤で下線を引いてください。「×」はだめです。「×」は、「間違っただけ」という強い意思を表示するものです。しかし、子供は間違えながらそれを直し、成長してゆくものです。間違えは成長のもとになりますし、間違っても良いのです。私たち大人でも「×」を付けられるのはいやなものです。子供が間違えたら「赤で下線を引く」、キッズではそのようにしていることを、理解していただければと思います。

② ご家庭での話し言葉が子どもの日本語力（国語力）を支えます

キッズ国際学園では、「ご家庭では子どもと日本語で話してください」と指導しています。これは、日本語に接する時間が、普段、親との会話の時間しかないからです。放っておけば、子どもの第一言語は英語になってしまいます。ご家庭では日本語で子どもと話してください。

日本語環境を整えることは、子どもの日本語力を高めることにつながります。つい使っ

まいがちな英語混じりの日本語や日本語交じりの英語でなく、日本語らしい正しくはつきりとした言葉使いを、ご家庭でも使っていただけますようお願いいたします。また、助詞（「てにをは」）についても、できる限り省略したりせず、はつきり発音してあげましょう。親は子どもの、もっとも身近な日本語の先生です。日本語、英語をきちんと使い分けできるように、ご家庭でルールを決めても良いかも知れません。

③ 国際結婚されている方へ - 日本語を話さない親の支援が大切です

子どもの日本語については、日本語を話さない親は関係ないと思いませんか？ 実は、日本語を話さない親のサポートは、子どもにとって、とても大きな心の支えになるのです。日本語を話す、あるいは話さないようになるかは、日本語を話さない親のサポートによる・・・と言っても過言ではありません。

では、日本語を話せないのにどうやってサポートするのか。それは、「日本語で子どもと話すお母さんあるいはお父さんとの会話を、温かく見守ってあげる」ということです。子どもはお父さん・お母さんと話をしたいので、日本語がわからないお父さん、あるいはお母さんが嫌な顔をする（あるいは日本語で話している時は無視したりする）と、日本語で話をしなくなります。だから、日本語がわからなくても、温かく見守ってあげてください。そして、子どもとの話が終わった後でお父さん・お母さんと子どもがどんな話をしていたのか、たずねてください。子どもが日本語を上手に話せるようになったら、英語で「上手に話せるようになったね」と褒めてあげてほしいのです。子どもは、英語しか話せないお父さん・お母さんが受け入れてくれていると感じたら、安心して日本語を話すことができるようになります。

2. 日本語で学ぶ・・・ということ

これからは「日本語で学ぶ」学園生活がはじまります。そのためには、日本語が身につけていることが前提となります。もちろん、一年生になるお子様方は、この点について問題はないでしょう。しかし、それだけでは不十分。これからは「学ぶ姿勢」すなわち、学園での態度や学習しようとする姿勢・気持ちも大切になります。

① 人の話が聞ける

子どもにとって人の話を聞くことは、慣れないうちは「苦痛」に感じるものです。とくに、投げかけられたような言葉には耳を貸すことができません。これは、私たち大人が、子どもたちに向かって、はつきりと話をしないことに原因がある場合があります。先生は、子どもたち一人ひとりに話しかけるように授業をするよう心がけますが、保護者の皆様も、子どもと話をするときには、しっかりと子どもの方を向いて話をするようにしてください。子どもたちは、怖いほど大人の真似をしてしまいます。

② 自分の考えや意見を話すことができる

したいこと、やりたいことは話す事ができても、自分の考えや意見を述べることは簡単ではありません。それは、言葉にする前に、頭の中で「なんて言えばいいんだろう？」と、子どもたちは考えているからです。たくさん話したい事があって、どの話から始めたらよいか、わからないからかもしれません。このような時、私たち大人は「待つてあげる」事ができなければなりません。子供が話を始める前に大人が話し始めてしまうと、子どもは話すことをやめてしまいます。子どもが自分の考えや意見を話すことができるようになるためには、大人の「待つてあげる事ができる」姿勢が大切です。

③ 自分の名前が「ひらがな」で書ける

最初は上手に書けないのは当たり前です。でも、子どもが自分で書く事が大切です。子どもに代わって親が書いてしまわないよう、下手でも、時間がかかっても、待つてあげるようにしましょう。そして書けたら、褒めてあげることを忘れないでください。もちろん、漢字で書けるお子様は、漢字で書かせてあげてください。ただし、他の子がわかるようにひらがなを振ってあげてください。(漢字で書かせる場合は、漢字の書き順をしっかり覚えましょう。間違った書順では、漢字は上手に書けません)

④ 落ち着いて座っていられる

最初から「落ち着いて座って」いられるはずはありません。最初は短い時間、座って本を読んだり話を聞いたりする練習からはじめましょう。練習をはじめるときはゲームのように「これから、きちんと座っていることができるかな?ゲーム(あるいは「練習」)をします。立ったりしたら負けです。じゃ、はじめよ・・・」と、一緒に遊びながら「落ち着いていられる」時間を作って、練習をしてみてください。きちんとしていなければならない時間と、思いつき遊んだり楽しんだりする時間との「けじめ」をはっきりとつけ、子どもがそれを理解する事が大切です。

3. 新しい生活が始まる・・・ということ

子どもたちは、幼児部の時は、朝少しくらい眠くても問題なかったかも知れません。あるいは、朝ごはんを食べられなくても、おやつ時間があれば、お昼までお腹がすかなかつたかも知れません。しかし、同じ事を一年生の子どもがしていたら、朝からの授業についてゆく事ができません。一年生になったら新しい生活に慣れるよう、これまでの生活習慣をちょっとだけ見直してみましょう。大人には大人の事情があるように、子どもには子どもの事情があります。その両方のバランスをとって折り合いをつけることは、大人にとっても子どもにとっても、良いことではないかと思います。

① 決まった時間に寝る・起きる習慣

子どもが寝る時間は、子どもの脳の発達に大きな影響を与える事が、最近の研究からわかってきました。夜遅くまで起きる習慣がついている場合でも、子どもは遅くとも10時までには寝ないと、脳の発達に問題がでることがあるとNHKのクローズアップ現代でレポートされていました。小学一年生であれば、できれば9:30までには寝ることができるように習慣付けてあげましょう。

子どもが早く休む事ができるようにするためには、寝る前に(お風呂などで)体を温めてからベッドに入る事ができるようにします。最低でも30分、できれば一時間前には、明るい光が目に入らないようにゲームやテレビは遠ざけるようにしましょう。特にTVゲームやコンピュータゲームなどは気持ちを昂らせるので、避けるようにしてください。9:30に休むためには、10分くらい前にベッドに入って、話をしながら眠りにつくようにしてあげる事ができれば完璧です。

また、朝は、朝食を食べる時間をしっかりとって、朝の一日をきちんとスタートすることができるようになってあげてください。幼児部では昼食前におやつがありますが、一年生からはおやつ時間はありません。お腹がすいたら、勉強どころか静かに座っていることもできません。一週間に一度の日本語学習環境です。ベストな状態で臨めるようにしてあげましょう。

② 前の晩には自分で学用品を確認し、準備することができる、ということ

自分で学用品を用意することは、一年生になったことの自覚を促します。最初はできなくても、一つひとつ確認しながら、自分で準備することができるようにしてあげましょう。ただ、最初はおもたしてとても時間がかかるでしょうから、ここでも「待てる」事が大事です。チェックリストなどを作ってあげることは、とても良いことだと思います。

③ 学用品にはすべて名前をつけて、大切に扱う、ということ

学用品を大切に扱って、学校での勉強に備えることはとても大切なことです。学校でなくして友達から借りたりしていたのでは、とても勉強に身が入りません。学校に持ってゆくものにはすべて自分の名前が付いていて、自分で管理する必要があることを理解させてあげてください。そのためには、物を失くした時の親の対応が大切です。どうしてなくしてしまったのか、どうしたら失くさないようにできるのか、失くしてしまったことをしかるのではなく、どうしたら失くさないようにできるのか、一緒に考えてあげることが、子どもの、物を大切にすることを育てるのだと思います。

④ 新しい生活には、新しいルールがあるということ

一年生になったら、子どもたちはお兄さん、お姉さんの仲間入りです。でも、新しい生活には、新しい生活のルールがあります。これまでのように教室で走り回ったり、好きなときにトイレに行ったり・・・というようなことはできなくなります。もちろん、トイレに行つてはいけないというわけではありません。ただ、そこには守るべきルールがある、ということをお教へてあげてほしいのです。

教室で声をあげて騒いだり、勝手に話をしてはいけないということ。トイレに行きたいときや話をしたい時は手を上げて、先生に話して許可をもらってからにすることなど、子どもたちにとって、一年生の生活は目新しいルールがいっぱいです。最初はルールが守れないのは当たり前ですから、先生から叱られたり、友達とトラブルを起こしたり・・・。そんなときにも、一緒に考えてあげましょう。自分はどうしたらよかったのか、先生や友達はどようしてほしかったのか、先生や友達の、相手の立場に立って考えてみることをお教へてあげてください。ただ形だけルールを守るのではなく、より良い態度や姿勢というものを、自ら考へ学ぶことのできる子どもたちであるように、導いてあげてください。

子どもたちは、期待と同時に不安を持って一年生を迎えます。時には失敗したり、時には「はめ」をはずしてしまうこともあるかもしれません。そんなとき、お父さんお母さんのサポートが、これからはもっともつと大切に変わってきます。キッズ国際学園では、お子様の成長を、皆様と共にしっかりと、サポートしてゆきたいと思ひます。